

第59回例会

## “うしろめたさ”の日本語教育学

話題提供：中川康弘さん（中央大学）

中央大学経済学部准教授。博士（教育学）首都大学東京。

■ 日時 ■

2019年1月25日（金）18:00～20:00

■ 会場 ■

早稲田大学早稲田キャンパス22号館502教室

※申し込み不要。当日、直接会場にお越しください。

圧倒的な強さで人々を飲み込む国家／市場システムからの要請を「恩恵」として受け、外国人が使用する日本語を「規定」し「商品化」することで発展してきた分野として日本語教育を捉えてみる。とすると、日本語母語話者として日本語教育に携わる者は、そのシステム維持に適度に加担しながら、教授者、支援者を僭称できる立場にいられることをどう考えればよいか。誤用や逸脱に対する態度、教育の贈与可能性を信じそこで得られる学びを奨励しつつ、言語能力の交換価値をちらつかる態度、そして、そもそもなぜ日本語を教え、また学ばなければならないのかという根本的な問いに、どのような態度で今後も向き合えばよいのだろうか。

発表では、「参加者の複数性が現われる空間」である本会の独自性を念頭に置き、これまで発表者が漠として抱いてきたこれらの疑問を、「うしろめたさ」という観点から自由に議論できればと考えている。

お問い合わせ: [project@alce.jp](mailto:project@alce.jp)  
(言語文化教育研究学会 企画委員会)

